

## 23区の農地面積

現在の23区の詳しい面積は下の表の様になります。葛飾区は23区中第3位の農産地面積となっています。農家個数を葛飾区で見ると、水元地区、奥戸地区、高砂地区などが多く存在しています。

農産地面積（田、畑、樹園地合計、単位：a）	
23区	農地面積（a）
1位 練馬区	21,761
2位 世田谷区	10,317
<b>3位 葛飾区</b>	<b>8,506</b>
4位 江戸川区	7,835
5位 足立区	6,459

(平成22年/東京都総務局)

葛飾区内にある農地は41.59ha(平成26年度現在/葛飾区調べ)になります。区内農業者の所有する農地面積は、約95.41ヘクタールで、そのうち、約43%の41.56ヘクタールが区内の所有となっています。

東京都全体では総面積の約3.5%が農地です。しかし、高度経済成長がスタートした昭和35年(1960年)には、この4倍の農地があったと言われています。経済成長と都市化による、農産の減少は激しいものだと思われます。



# 葛飾区の野菜

実際に葛飾区で作られている、野菜を見ていきたいと思えます。

葛飾区では、「小松菜」の栽培を主力に「枝豆」「ほうれん草」「ねぎ」「キャベツ」などの栽培に移行しています。ハウス栽培の導入などにより、新鮮で安全な農産物を供給しています。

特に、「小松菜」は全校一斉小松菜給食と言った活動が行なわれており、生産者が葛飾区内の小中学校を訪れ、葛飾の農業の話しをされたりしています。

順位	品目名	収穫量(トン)
1	小松菜	894
2	キャベツ	88
3	枝豆	73

(平成26年10月/葛飾区)



# 葛飾区にある直売所

農産物直売所とは、その直売所が立地する周辺の農家  
あるいは農業協同組合（農協、JA）などが設置した、  
地元の農産物を販売する施設である。

数多くの種類の野菜があり、できるかぎり農薬を減ら  
して栽培した、安全で新鮮な野菜を提供しています。

5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月

枝豆・トマト・なす・きゅうり  
じゃがいも・ブルーベリー



ホウレン草・キャベツ・サツマイモ・ネギ・ワケネギ  
大根・亀戸大根・ブロッコリー・白菜・山東菜・チンゲン菜



小松菜



小松菜は1年中栽培しています！